

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 13日

中施策事業名	市道等維持管理事務	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹

①めざすまちの姿	07 道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる
②大施策	利用者が安心して通行できる道路環境をつくる
③中施策	利用者が安全で安心して通行できるように道路を整備・管理する
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	安全安心に通行している
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・道路、橋梁及び公共用物の占用、承認工事に関すること ・道路及び公共用物の維持修繕に関すること ・定期及び春秋の土砂回収業務に関すること ・橋梁の長寿命化計画及び実施に関すること ・道路等の草刈業務に関すること ・道路等照明施設の維持修繕に関すること ・道路パトロールの実施並びに対応に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
路面調査による舗装修繕進捗率	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	10	20	40	60	80	90
	実績値	11	23				
	単位	%					
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				214, 975千円	229, 998千円	
	a 事業費合計			206, 111千円	217, 138千円	218, 042千円
	人 件 費	正規職員	人数	1. 5 人	2. 2 人	
			b 金額	8, 864千円	12, 860千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	1 人	
			金額	0千円	865千円	
		人件費合計			8, 864千円	13, 725千円
② 補助金等 (収入)				5, 225千円	20, 350千円	3, 760千円
③ コスト (①－②)				209, 750千円	209, 648千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				3, 052 円	3, 050 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	老朽化により凸凹した道路舗装を修繕した。橋梁定期点検を行い、長寿命化修繕計画に基づき万場橋・若王子3号橋の修繕工事を行った。また道路等の草刈を実施し、車両等に対する視認性を確保した。以上により、利用者が安心して安全に通行できる環境を整備することができた。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	要望対応に使用する費用と、管理者が計画的に実施する舗装修繕等の費用を分け執行する。道路法施行令第三十五条の二第二項に基づく橋梁点検について、業者委託にて実施していた部分を、コスト削減のため職員により点検実施することを検討する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	区長要望の範囲を年度単位で分割し、概ね3年で施工完了となるように費用を平準化し、実施するように計画する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 橋梁点検業務	内容、理由、時期等 道路法施行令第三十五条の二第二項に基づく橋梁点検について、業者委託にて実施していた部分を、コスト削減のため職員により点検実施することを検討する。
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	路面調査による舗装修繕箇所を選定し、工事施工年度の計画表を作成し計画的に実施することとした。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	修繕工事後も道路パトロールによる巡回、点検を実施しPDCAのチェック項目の役割を果たした。	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 24日

中施策事業名	交通安全施設管理・整備事業	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹
①めざすまちの姿	07 道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる		
②大施策	利用者が安心して通行できる道路環境をつくる		
③中施策	利用者が安全で安心して通行できるように道路を整備・管理する		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	安全安心に通行している		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	- 交通安全施設要望の事務に関すること - 交通安全施設の維持補修に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
通学路安全プログラムによる交通安全施設整備実施率	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	100	100	100	100	100	100
	実績値	100	0				
	単位	%					
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				22,504千円	24,065千円	
	a 事業費合計			19,549千円	21,142千円	22,000千円
	人 件 費	正規職員	人数	0.5 人	0.5 人	
			b 金額	2,955千円	2,923千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			2,955千円	2,923千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				22,504千円	24,065千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				327 円	350 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標の内容を見直す必要がある	△	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	やや改善が必要	△	B
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	各区長から提出される交通安全施設工事要望書において、通学路の関係する箇所を優先して実施した。豊明市交通安全プログラムでの要望により、カーブミラー、ガードレール、区画線等の設置を推進しているが、昨年度は交通安全プログラムによる点検が実施されなかった。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	設置後30年を経過した道路反射鏡、道路照明灯が数多くあるため、老朽化による支柱の腐食に対する点検を行い、倒伏による被害を未然に防ぐ。また交通安全施設工事要望については、通学路、事故発生の状況等を考慮した優先度により実施するルールを策定する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	道路附属物の管理台帳が紙ベースであるためデータベース化し適切な管理を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 生活道路対策	内容、理由、時期等 生活道路をエリアで区画し、その範囲を効果的な交通安全対策ができるようにする。5年後を目途にエリア決定する。
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	現地調査を行うことにより、交通の現状を自ら把握することにより効果的な対策を実施した。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	前後町鎌ヶ須地内横断歩道付近において、関係機関との協議により交通安全対策としてポストコーンを設置することにより、車両の走行速度を低減させ交通事故防止を図った。	

中施策評価書

作成日 平成30年 11月 8日

中施策事業名	道路新設改良事業	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹

①めざすまちの姿	07 道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる
②大施策	利用者が安心して通行できる道路環境をつくる
③中施策	利用者が安全で安心して通行できるように道路を整備・管理する
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	安心して通行できるよう道路が整備管理されている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・道路工事（区長要望工事、管理者施工工事）の実施に関すること ・道路、橋梁工事の調査及び設計施工に関すること ・道路、橋梁工事の災害復旧に関すること ・社会資本総合整備計画（道路局）に関すること ・市町村土木補助事業に関すること ・特定交通安全施設等整備計画に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
区長要望工事の採 択率	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	35	35	35	35	35	35
	実績値	38	46				
	単位	%					
管理者施工	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	2	4	4	4	4	4
	実績値	2	6				
	単位	箇所					

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				171, 646千円	142, 259千円	
	a 事業費合計			142, 101千円	131, 153千円	143, 207千円
	人 件 費	正規職員	人数	5 人	1.9 人	
			b 金額	29, 545千円	11, 106千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			29, 545千円	11, 106千円
② 補助金等 (収入)				25, 576千円	17, 509千円	49, 000千円
③ コスト (①－②)				146, 070千円	124, 750千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				2, 125 円	1, 815 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	土木課における工事実施のための基本制度である区長要望制度の実施について、本年度は多くの要望を実施でき、目標を達成することができた。今後も本年度のような結果を残せるように努めていきます。ただし、過去に実施した区画整理地区内の道路等の老朽化の対応については、対応を検討する必要がある。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	過去に実施した区画整理地区内のインフラについては、老朽化が進んでおり対策が必要である。さらに、同地区では区長要望案件の積み残しが多い状況ともなっている。そのため、この部分については、従来の区長要望と平行し道路管理者(市)が作成した整備計画に基づき整備を進めて行く。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	整備計画に基づき、計画的に施工を実施する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 区画整理実施済地区内の道路等の老朽化対応	内容、理由、時期等 従来、区長要望枠で対応していたが、老朽化が進んでいる地区が多く対応しきれない状況のため、別枠で予算措置し、市作成の整備計画に基づき、対応をしていく。
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	過去の採択状況を精査し、緊急性等を考慮しながら、施工箇所を選定した。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	過去に実施した区画整理地区内の道路等については、老朽化が進んでいるため道路管理者(市)が整備計画を作成した。今後、この整備計画に基づき、計画的に実施していく予定です。	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 13日

中施策事業名	街路樹管理事務	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹

①めざすまちの姿	09 空気がきれいである
②大施策	きれいな空気を保全する
③中施策	緑の多い生活環境をつくる
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	緑の多い生活環境となっている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・街路樹の維持管理に関すること ・アダプトプログラムに関すること。

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
街路樹による要望 等の件数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	33	31	29	27	25	23
	実績値	45	40				
単位	件						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				31, 791千円	35, 542千円	
	a 事業費合計			28, 836千円	32, 619千円	32, 337千円
	人 件 費	正規職員	人数	0. 5 人	0. 5 人	
			b 金額	2, 955千円	2, 923千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			2, 955千円	2, 923千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				31, 791千円	35, 542千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				463 円	517 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	街路樹の適正な剪定作業により、前年度より要望件数が減少した。目標には達成していないため今後も継続し、さらに、信号が見えにくい等の一般交通に対する支障がないように注力し管理していく必要がある。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	老朽化による枯れ、台風等の強風で倒伏による樹木の欠損している植樹柵に雑草が繁茂しているため、舗装することで適正な管理を行う。街路樹剪定要望については、周辺住民の意見・要望等を十分に把握し対応する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	台風等の強風による倒伏を防ぐため、街路樹の全数目視による点検をすることにより、腐朽等による倒伏対策を検討する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 街路樹撤去事業	内容、理由、時期等 歩行者通行の際に支障となる可能性のある箇所を抽出し、街路樹を撤去して管理コストを低減させる。
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	道路パトロールにより通行等に支障となる案件の事前対策を行ったが、市民からの通報による対応が数多くあった。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成30年 7月 24日

中施策事業名	農業環境保全事業（土木）	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹
①めざすまちの姿	10 日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティになっている		
②大施策	自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる		
③中施策	市民とともに緑が続く環境をつくる		
④中施策事業の対象	農地（勅使水系）		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	広域的な活動による農地の保全管理		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 農地・水・環境保全対策事業に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
事業の達成率		事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
		目標値	70	76	77	78	79	80
		実績値	75	75				
単位								
		事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				10,881千円	9,486千円	
	a 事業費合計			7,926千円	6,563千円	6,674千円
	人 件 費	正規職員	人数	0.5 人	0.5 人	
			b 金額	2,955千円	2,923千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			2,955千円	2,923千円
② 補助金等 (収入)				5,820千円	5,991千円	4,798千円
③ コスト (①－②)				5,061千円	3,495千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				74 円	51 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	勅使水系環境保全の会における多面的機能支払交付金の活動がより効果的となるように中間報告等を行ったが目標を少し下回る結果になった。次年度は、今年度の手法をさらに精査、見直しを行っていきたい。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	毎年度の評価結果を踏まえて翌年度の活動内容を見直し、目標に向けた効果的な活動を促進する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項		
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	活動計画の進捗状況を中間期に役員会に図り、現状を把握することによって効果的な活動を促進することができた。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	概ね、計画通りになっているが、今後も、活動内容についての改善点の洗い出し等を行い事業の効率化を図っていきたい。	

中施策評価書

作成日 平成30年 6月 1日

中施策事業名	土地改良施設維持管理事業	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹

①めざすまちの姿	32 市内に遊ぶ場所や働く場所があり、豊明市が潤っている
②大施策	地域の経済活動が盛んなまちをつくる
③中施策	産業の活性化を図る
④中施策事業の対象	農業者
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	農業施設の長寿命化を図ることで、安定した農業基盤の基もと農業を営むことができて いる
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・農業土木工事（区長要望工事、管理者施工工事）の実施に関すること・排水機の維持 管理に関すること・維持管理適正化事業に関すること・単県事業（工事発注、申請書作 成）に関すること・土地改良施設（ため池、用排水路）の維持管理に関すること・農業 取水施設等の他自治体との調整に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
維持管理施設整備 率	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	70	70	70	70	70	70
	実績値	70	70				
単位	%						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				78, 961千円	52, 290千円	
	a 事業費合計			70, 097千円	47, 029千円	45, 490千円
	人 件 費	正 規 職 員	人 数	1. 5 人	0. 9 人	
			b 金 額	8, 864千円	5, 261千円	
		非 常 勤 一 般 職 員 等 (事業費に含む)	人 数	7 人	9 人	
			金 額	218千円	429千円	
		人件費合計			9, 082千円	5, 690千円
② 補助金等（収入）				6, 900千円	24, 273千円	10, 550千円
③ コスト（①－②）				72, 061千円	28, 017千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				1, 048 円	408 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	排水機場、用排水路等の土地改良施設に対して適切な時期に適切な内容で、維持管理をすることにより、施設の長寿命化を図る事業であるが、今年度は、水路改修、機器のオーバーホール等を行うことにより、目標を達成できた。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	維持管理を行う上で、現況調査や機能診断を行い予防保全をする。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	次年度以降も改善事項が継続できるように事務を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	現況調査や機能診断を地元と協力しながら実施することができた。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		